

諦崇寺報

発行 藤井崇文 編集 藤井崇文
〒631-0065 奈良市鳥見町
2丁目28-10
0742(37)2569
www.rittouji.jp

曹洞宗の僧侶は、永平寺での安居(修行を終えても、様々な修行の場が与えられています。六月に東京の曹洞宗宗務庁で行われた「布教師養成所講座」では、全国から三・四〇代の僧侶約六〇人が集まり、五日間の道場が開かれました。

本尊さまが祀られた八〇畳ほどの和室で、坐禅を組んだ姿勢で講義を受け、食事をし、布団を並べて寝る生活です。

朝の五時半から夜の九時まで息つく暇がなく、緊張感に溢れた有意義な時間を過ごしました。

はじめての寺報を作るに当たり、私が「布教師養成所講座」で発表した法話を掲載しようと思えます。

一生マネを続けること ホンモノになる

皆さん、こんにちは。見てのとおり、私は若いお坊さんで、皆さんよりも若輩者であります。

そこで本日は、去年の一月に、一〇八歳で亡くなった、永平寺の宮崎禪師のお言葉を紹介したいと思います。

宮崎禪師はよく、「一時のマネは、一時のマネで終わる。しかし、一生マネを続けられれば、それはホンモノになる。」と仰っておられました。

そのお言葉を聴いて、永平寺で修行していただきました私は、分かったような、分からないような、そんな気持ちでおりました。

ところが先日、ある法事の席で、私の読経が終わりましたら、檀家の方が、「若いお坊さんは、大きな声で、一生懸命、お経を読んでくれるから嬉しい。」と仰ってくださいました。

私は、「まだまだ若造ですので、せめて声だけでも一生懸命出そうと頑張りました。」とお答えしました。

そのとき、宮崎禪師のお言葉を

ハッと思い出したのです。

私は今まで、「早くよいお坊さんになりたい」と願っておりました。けれども、それはすぐに答えが出るものではなくて、一生かかって見付け、達成するものであると気付いたのです。

一生懸命にお坊さんのマネを続ける。それしか道はないのだと分かりました。

抜けて考えてみますと、よいお父さん、よい奥さん、よい息子さん、よい娘さん。それは、「ここまでやったから、ここまですれば」というのではなくて、ずっと、努力を続けることが、大切なのではないのでしょうか。

今は、コンビニエンスストアや携帯電話があって、即時性が求められる時代ですが、よいお父さんを目指して、よいお母さんを目指して、ずっと、一生懸命に、努力を続けることが、仏さまのお姿にも通じるのではないかと思います。

皆さんは、宮崎禪師のお言葉、「一時のマネは、一時のマネで終わる。しかし、一生マネを続けられれば、それはホンモノになる。」このお言葉を、どの様に、お感じになりますでしょうか。

どうもありがとうございます。

慈弘山 諦崇禪師

禅宗を中心として、お寺には「山号」があります。諦崇禪師の山号は「慈弘山」です。

山号とは、その文字の如く寺院に冠する山の称号です。もともと山中に建てられた寺院が、その所在から〇〇山〇〇寺と呼ばれたことが起源です。後世には、平地に造られた寺院にも山号が付けられついに寺院の別称として用いられるようにもなりました。

ところで、お寺の本尊さまを祀る仏壇を「須弥壇」と言います。各家で祀りになる仏壇も広義で

の須弥壇となります。須弥壇とは「須弥山」のことです。仏教の世界観では世界の中心に位置し、帝釈天や四天王など仏教を護持する神々が住む処を指します。

寺院に山号が用いられるのも、須弥山に習って、仏教を広く伝えようという決意の表れではないでしょうか。



「慈弘山」という山号は、大山永平寺管首である福山諦法禪師に命名して戴きました。願わくは諦崇禪師が「仏さまの慈悲を弘める山」になるよう、私も微力ながら勤めて参ります。

『永平寺 一〇四歳の禪師』

NHKソフトウェア
DVD二枚組
六、八〇〇円(税抜)



永平寺での修行、それは永平寺での生活です。道元禪師が永平寺を開かれた八〇〇年の昔から続く清規(規則)に従って、日々を行います。必要最低限の食事と睡眠、顔を洗うにも入浴するにも決められた作法があります。

はじめのうちは窮屈で、逃げ出したい気持ちになります。しかし指導してくださる老僧や仲間の修行僧に助けられ、ただ只管に坐禅

栗東寺ホームページ
http://www.rittouji.jp



に打ち込む生活は、自己を強烈に意識させ、そして忘れさせます。「何だ、これで充分ではないか」と思うに至って、それまでいかにモノに溢れ、我まな暮らしをしていたかを知るのです。

すると、永平寺の四季は輝きを増すようになり、何気ない日々ではなく、感動と感謝の気持ちで湧き起こり、素晴らしい日々へと変わっていきます。

このDVDはNHKスペシャルで放映されたものです。

一般にテレビ画面として美しいのは「冬の朝早くに、素足の雲水(修行僧)さんが掃除をしている」となり、紹介されることも多いのですが、永平寺の生活はこれだけではありません。春も夏も秋も、もちろん昼も夜もあります。

ただ苦しいだけではなく、例えば一週間ぶつ通しの坐禅をやり終えたときは、喜びもあります。

テレビ放映用に製作されているので堅苦しくありません。言葉だけでは伝わりにくい僧堂生活、その一端を垣間見ることが出来ます。

永平寺七八世管首宮崎安保禪師と作家・立松和平氏との対談では、兵庫県加古川市出身である禪師が「ユーモアも交えながら、平易なお言葉で「禅とは何か」「修業とは何か」を語られています。

禪師のお言葉は、ときに厳しくそして優しく、私たちが勇気付けてください、きつと心に染み入ることと思います。

あとがき



はじめての寺報、いかがでしたか？
内容が物足りないのですが、まずは始めることが大事と考えました。
次にお会いしたとき、ご意見・ご感想などをお話してくださいれば、嬉しく思います。
崇文 拜